

議会 だより

12月議会の本会議での質問項目は以下の通りです。

平成25年12月議会は2日から9日にかけて行われ、今回は一般質問に立ちました。毎回質問したいことがたくさんあって、質問と答弁合わせて1時間という限られた時間しかありませんので、項目を絞るのに悩みます。もちろん議会で取り上げないことも、議会で各局の担当の方と話をし対応をお願いしたり取組を進めていることもあります。

今回の議会で取り上げた項目は以下の通りです。

1.ふるさと納税について

2.子育て支援について

●待機児童、未入所児童対策と乳幼児期の重要性を踏まえた計画づくりについて

本市では4月の時点では、待機児童はゼロということですが、この10月には220名もの待機児童があり、その数は前年同月より増えています。加えて、本市の規定では待機児童とならない、特定の保育所を希望して入れない、いわゆる未入所児童は4月の段階で473名、10月現在では840名もいて、昨年の12月にはその数は1013名にも上っています。これでは仕事を続けたい女性は、もうひとり子どもを産みたいと思ってもまた保育所に入れなかつたら、産みたくても産まない選択をしてしまうのではないかと心配するところです。

ただ市としても保育所の定員をここ数年増やしており、先日も小倉北区と若松区に平成27年開所予定で新規保育所を公募し、つい先日、運営主体を決定。新たな策は講じていますが、仕事と子育ての両立を望まれる方が増えるなか、保育士不足などで既存の定員を満たしていない保育所などもあり、困難な現状があります。こうした状況を踏まえて、今回、小規模保育事業導入のための補正予算議案が提案されていますが、乳幼児期は人格形成の根っこ部分を作る時期でもあり、この時期の育ちが一生に影響するといつても過言ではなく、その点をふまえて今後の考え方を尋ねました。

市長は、「小規模保育事業の実施に当たり、保育の質の確保は大変重要と考えており、今回、運営主体については、早急に対応ができる、バックアップ体制がしっかりした市内で認可保育所を運営する社会福祉法人等に限定し、保育従事者全員が保育士であるA型で実施したいと考えている。

施設の設置場所については、本園舎の園庭や隣接地がより良いと考えているが、それも含めて事業実施に必要な要綱の策定等については、認可保育所と同等の質の高い保育が実施できるよう検討している。今後とも、北九州市の明日を担う子どもたちの「育ち」を第一に考え、国の加速化プランのメニューで、活用できるものは積極的に活用し、保育の質を確保しながら、潜在的なニーズも含めた待機児童の解消が早期に図れるよう全力で取り組んでいく。」とのことでした。

●働きながら子育てしやすいまちづくりについて

3.教育について

●本市の英語教育の充実について

4.新たな住宅政策について

●中古住宅のリノベーション改修補助や多世代住宅などの促進について

5.環境未来都市にふさわしい人にやさしいスポーツ施設への改善について

6.林芙美子文学賞の創設について

7.継続できる市民活動支援について



8.若松区のまちづくりについて

●若松競艇場に一般的に市民が利用できるホールの設置について

若松区には200名くらい入る祝賀会などのできるホールがなく、こうした催しをする場合は常に他の区にあるホテルなどを利用するしかありません。交通利便性が決して良いとは言えない若松区から小倉北区や八幡西区などに移動するには時間もお金もかかります。加えて区内の飲食業の売上にも繋がりにくく残念な状況です。今議会に北九州市競輪、競艇特別会計補正予算で、若松競艇場の東スタンド棟改修事業が計上されており、ぜひこのような機会に市民区民に開かれた身近な競艇場にするためにも市民が利用できるホールの設置を実現できないか尋ねました。

産業経済局長は「若松競艇場は昭和27年11月に開設されて以降、競艇事業の収益金の一部を一般会計に繰り出しするなど、市の財政に大きく貢献してきた。また、今後の事業運営においても、発売額の確保による安定した運営を見込んでいる。若松競艇場の東スタンド棟は、昭和56年6月に竣工し32年経過をしているが、現在の耐震基準を満たしておらず、耐震補強を行う必要が生じており、今回の改修工事にあたっては、耐震補強のほか、老朽化している設備等の更新を行うとともに、あわせて集客力向上のための魅力ある施設づくりも考慮した施設改修を行うこととしている。これまで、若松競艇場では、『地域に支えられている施設』であることを常に意識し、地域の方々との交流を大切にしてきたが、今回の東スタンド棟の改修においても、『地域に親しまれる競艇場』として、競艇場の中に地域の皆様が利用できる施設を設置できないか検討する。引き続き競艇事業の推進にご理解とご協力をお願いしたい。」との答弁でした。

●PCB廃棄物処理期限の見直しについて

この問題については国の責任でしっかりと解決する問題であり、何よりも市民の安全安心が優先されます。環境省に対し真摯な説明と、地元の声をしっかりと聴いていただくよう強く求めました。



新年早々、張り切って消防の出初式の日にちを1週間間違え現地に行ってしまった私。「昔はしっかり者だった」と夫と子供に訴えても全く信じてもらえずうっかり者のレッテルを貼られ、十日えびすの際、商店街で餅つきをすれば、ご覧になっていた幾人の方から腰が入っていてすごかったことさらに感心され、今年も明るさとたくましさで強く生きていこうと決意した年頭でした。わが子も今年は小学校3年生。以前は休みの日に行事に出席する際、可能なところはどこでもついてきていましたが、最近はだんだんついてこなくなり、寂しさもありますが少しづつ成長を感じます。昨年はなまる学習会の高濱先生のご講演で、女の子はある程度の年齢で自然に自立するが、男の子は親が自立にむかわせなければ難しいといったお話を伺い、なるほどと共感するだけに、徐々に意識しながら手を出しすぎないようにと心がけています。

この1月には成人式が行われましたが、今年成人を迎えた皆様やご家族の皆様には心からお祝いを申し上げます。

振り袖姿やスーツ姿の新成人を見ると、「どこの親御さんもご苦労されながら一生懸命育てられたのだろう」と、つい親の立場からみている自分がおり、これから的人生みんないろんなことを乗り越え、責任ある大人として幸せに生きて行ってほしいと願うばかりです。

